茨城県畜産センター
平成29年度評価書

平成30年11月

茨城県畜産センター

評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価：AA（3.54）	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ，質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現したと判断できる。

相談・指導・技術の普及・優良遺伝子資源の供給など，本来の畜産センターとしての業務についてしっかり計画通り進められている点は高く評価できる。また，積極的な広報活動により，畜産センターの業務を広く県民に伝えるとともに，現場のニーズに応えて受精卵共有センターを設置するなど，臨機応変な対応も評価できる。種畜を始めとするセンターの研究成果を普及させるための活動も十分行われている。

特に「ローズD1」の供給は，新ブランド豚肉生産に直結することが見込まれる成果であり，現場において現実に普及させ，かつ事業者の所得向上を期待することのできる現実的かつ実用的な試験研究を行うことができたものと評価する。

また，学会発表の倍増と有力学会誌に論文5報を掲載できたことは高く評価できる成果である。将来の試験研究の発展には，若手人材の育成が不可欠なので，これまで以上に内部人材の能力向上の方策を検討していただき，試験研究機関としての機能を高めていっていただきたい。

県民ニーズにおいては消費者がどの様な畜産物を望んでいるかの視点を持ち，輸出を展開する上でも，農場HACCP，GAP認証，アニマルウエルフェアなどの畜産物に対する世界的な傾向などをしっかりつかみ，研究や指導にあたられる事を期待する。

概ね計画どおり試験研究や業務が実施され，多くの項目で目標を超える成果を出していることから，質・量の両面において目標を超えた優れたパフォーマンスを実現したと評価する。

□項目別評価

ｉ）県民に対して提供する業務

1）試験研究　　評価： A

①アミノ酸バランス改善飼料を利用した悪臭低減技術の開発

肥育豚にアミノ酸バランス改善飼料を給与することにより，排泄物の堆肥化の過程で発生するアンモニアの量が低減することを示した。また，サイレージを活用したアミノ酸バランス改善飼料によるコスト低減効果も確認しており，悪臭低減に寄与する可能性がある成果と評価できる。

しかし，データによっては試験区間での差の有無が正しく判断できないものがあり，今後さらに例数を追加した実証試験により，県内養豚農家に普及可能な成果に繋がることを期待する。また，人間の鼻による感応検査をしっかり行うことが大事だと考える。餌によって糞尿の臭いが変わるのは事実なので，今後に期待したい。

②牛肉の加熱並びに熟成によるおいしさ向上試験

「おいしさ」を科学的に評価に必要するため，様々な角度から試験を行い，有用なデータを取っていると判断される。本試験の成果は，牛肉の一般的な「おいしさ」の向上に結びつくものと考えられるため，「常陸牛」に特化した普及成果とできるかが今後の課題と思われる。

今後の官能試験の実施に当たっては，嗜好に合わせたグループ分けや，プロの調理人との意見交換も含めて研究を進めてもらいたい。また，食肉の流通形態，賞味期限との関係，熟成と肉質（脂肪含量，部位）との関係も検討すべきではないか。

③黒毛和種供卵牛の胚採取成績に影響する要因の解析

実用化に向けた前向き研究が盛んに行われているなか，過去のデータに基づく後ろ向き研究を将来に生かす取り組みはユニークである。研究は順調に進捗しており，最終成果に期待が持てる。このような研究はデータ量が勝負なので，データ数を追加し解析精度を向上させるよう期待する。

また，供卵牛のストレス状態，子宮環境との関係も調査していただき，受精卵の効率的生産技術の確立に繋げてほしい。

2）相談業務・依頼分析　　評価： A

依頼分析の件数は飼料用米の栽培が安定したことにより減少しているが，これは技術指導の成果とも考えられる。技術相談の回数は目標を大幅に上回っており，畜産農家や技術者，また県内企業等の相談窓口として，要請に十分こたえていると判断される。

3）指導業務　　評価： AA

各所で目標を超える回数の研修会等を実施し，普及に繋がる情報提供等を実施するなど，全ての項目で目標を大幅に上回ったことは高く評価できる。

4）施設・設備利用　評価： A

施設・機器等が有効に活用されており，着実に取組みがなされているものと評価する。

5）成果の普及活用促進　評価： A

既存成果の普及活動は計画通り活発に行われているが，「普及に移す成果」を挙げられなかった点は残念であり，今後，成果が上がり目標達成することを期待する。

6）外部人材育成，教育活動への協力　評価： AA

繁殖和牛入門講座，家畜人工授精講習会の開催支援，共進会・共励会等の審査，農業大学校への講師派遣等，多くの項目で目標を上回っており，限られたスタッフを十分に生かし，目標を超える成果を上げていると判断される。

7）知的財産権の取得・活用及び優良遺伝資源の供給　評価： AA

多くの項目で目標を上回り，種雄牛の作出の他，特に系統豚等の精液供給では新たに開発したローズD-1の精液の供給が大幅に伸びており，県内畜産業の発展に大きく貢献している。多くの項目で目標を超える非常に優れた成果を上げたと判断される。

優良遺伝資源の供給に積極的に取り組まれていることは評価できるので，今後は生産子牛数等の成果も検証してほしい。

8）広報・普及啓発　評価： AA

一般向け広報にフェイスブックを活用し，情報発信に努め，多くの閲覧を得ていることは高く評価できる。査読付き論文，学会発表も積極的に行われており，研究機関としての活動も盛んである。さらに，学会発表等を行った成果の広報普及が望まれる。

ⅱ）業務の質的向上，効率化のために実施する方策

1）全体マネジメント　評価： A

組織が3か所に分散している現状の中，3機関が連携して試験研究の推進が図られており，マネジメントの充実が試験研究等の成果にも繋がっていると思われる。今後，環境試験などは各畜種について3機関横断的に実施していただきたい。

2）県民（企業，農業者等）ニーズの把握　評価： A

現地試験先や生産者組織団体主催の会議等に出席して生産者ニーズの把握に努めるとともに，公開デーを開催して消費者ニーズの把握にも努めており，目標の数値（回数）は充分以上に達成されていると評価する。得られたニーズをどのように試験研究に生かすかを全体で一層検討していただきたい。

3）他機関との連携　評価： AA

大学，国研，民間との共同研究，国研主催事業への参加，畜産関係団体主導事業への協力など，多くの項目で件数が目標を上回っており，連携が強化されていると評価する。今後は，県が主体的に取り組んだ共同研究等の状況が分かると，なお良いと思われる。

4）外部資金の獲得方針　評価： AA

組織的な外部資金として，前年比40%以上にあたる5百万円近い増額を達成しており，高く評価できる。

5）内部人材育成　評価： AA

外部の研修，学会等への派遣回数が目標を大幅に上回っており，学会発表数の増など高く評価できるが，その効果をどのように測定しているかが不明な点がある。今後は，これらがセンターの活動の強化にどう繋がっているか検証しながら，有益な資格の取得や育成した人材を活用した新たな成果が創出されることを期待する。